日本で飼育されたガラパゴスペンギン

福田 道雄

キーワード：ガラパゴスペンギン，飼育記録，上野動物園，浜松市動物園.

ペンギンは，動物園や水族館などの動物飼育展示施設では古くから欠くことの出来ない動物の一つであったと言える（福田 1997）．近代的な野生動物の飼育展示施設は 19 世紀からヨーロッパやアメリカの各地で次々と設立されたが，佐々木（1977）の記述などを参考に推察すると，初期の頃は飼育施設関係者や来園者間でも，珍獣や珍鳥への注目度が強かったと思われる．そのため，体が最小のコガタペンギン *Eudyptula minor* に次いで小さいガラパゴスペンギン *Spheniscus mendiculus* は小さいことで物珍しさに欠けて，飼育種と扱われる機会は非常に少なかったのではないだろうか（本稿の種和名はサロモン（2013）に従った）．そのような傾向を示す例の一つとして，ペンギン類の中での珍鳥度合いの違いが現れたことがあった．それは 1828 年に開園したロンドン動物園において，すでに 1846 年からマカロニペンギン *Eudyptes chrysolophus*，フィヨルドランドペンギン *E. pachyrhynchus*，アフリカペンギン *S. demersus* の 3 種が飼育されていた時期に（Low 1929），大形で外見的により珍鳥度合いが強いと思われるキングペンギン *Aptenodytes patagonicus* が 1865 年に到着し，展示されて，大人気となったそうである（Martin 2009）．このことからも，そのような風潮が根強くあったと考えられる．

ガラパゴスペンギンは，エクアドル共和国のガラパゴス諸島に固有のペンギンである．ガラパゴスペンギンを含むガラパゴス諸島の自然については，1954 年に行われた現地調査結果がユネスコと国際自然保護連合に報告された事から保護運動が始まったとされている（伊藤 2002）．そして，1958 年ロンドンでの国際動物学会議で「ガラパゴス委員会」が結成され，それが 1959 年の「チャールズ・ダーウィン財団」設立となった．1964 年にはチャールズ・ダーウィン研究所が現地に設置され，本格的な保護活動が開始された（伊藤 2002）．その中で，ガラパゴスペンギンの生息数については，1970 ～ 1972 年に初めて調査されて，6,000 ～ 15,000 個体と推定された（Boersma 1977）．その後はエルニーニョや環境悪化などの影響で減少を続け，2003 年の調査で約 1,200 個体と推定されている（Vargas et al. 2005）．最近の生息数についての報告はされていないが，最も個体数の少ないペンギンであり（サロモン 2013），現在は IUCN Red List で絶滅危惧種（EN）とされ（BirdLife International 2016），CITES によって現地からの持ち出しが規制されている．

ガラパゴスペンギンの飼育は，1915 年と 1926 年にニューヨーク水族館で初めて行われ（Townsend 1927），その後は 1930 年から 1960 年代前半にかけてサンディエゴ動物園（Anonymous 1934, 1935 ; どうぶつと動物園編集部 1965 ; Lindholm 私信），1933 年に国立動物園（Lindholm 私信），1933 年にバミューダ水族館（Bermuda Biographies オンライン），1935 年にブルックフィールド動物園（Winn 1935），1939 年にマイアミで個人飼育（Lindholm 私信），そして 1962 年にフィラデルフィア動物園（Lindholm 私信）で記録されていた．これらはすべて北アメリカの 6 カ所の飼育施設と 1 カ所の個人に限定されていて，その他の地域での飼育記録は見つからなかった．特に，古くから多数の動物園などの飼育施設があったヨーロッパで飼育記録を見つけられなかったのは，ガラパゴス諸島自体が北アメリカより遙かに遠方で，生きた状態での運搬により多くの手数がかかること，そして 1950 年代からは保護活動が進んだためではないかと思われる．一方，日本では 1960 年代に本種の飼育記録があり，北アメリカ以外の飼育施設では唯一の記録であったと見られるので，報告したい．

日本での飼育記録は，1 個体が 1963 年 9 月 10 日から 1964 年 7 月 29 日まで浜松市動物園で，これを引き継いでその同日の 29 日から東京都恩賜上野動物園で飼育され，1969 年 8 月 26 日に死亡した．両動物園での飼育期間は合わせて約 6 年であった．この個

ペンギン飼育史研究会　〒 302-0005　茨城県取手市東 5-4-58　Email:mogufuku@beige.ocn.ne.jp
（受理：2018 年 4 月 12 日）

体が上野動物園に来園した経緯は，どうぶつと動物園編集部（1965）と Kawata（私信）などによれば以下の通りである．1963 年 8 月 4 日エクアドル東方の太平洋で，静岡県清水市日光水産所属のマグロ漁船第三日光丸によって本個体が捕獲されて持ち帰られ，帰国後の 9 月 10 日に浜松市動物園に寄贈された．浜松市動物園では，当初フンボルトペンギン *S. humboldti* の幼鳥とされていたが，ガラパゴスペンギンの可能性もあるとも思われていた．1964 年春に，Animal Gardens（1967 年発行）の著者の Emily Hahn 氏が取材のために来日した際に，このペンギンの写真を撮影した．そして，その時の数年前までガラパゴスペンギンの世界唯一の飼育施設であったサンディエゴ動物園に送って同定を依頼した．その結果，ガラパゴスペンギンと判定され，その話が同氏から上野動物園に知らされた．当時の上野動物園はペンギンコレクションに力を注いでいて，9 ～ 10 種保有という世界有数の多種のペンギン飼育施設であった（小森 1964）．そこで，浜松市動物園との間でアメリカバイソンと交換されて，来園したとのことであった．なお，この個体は，本種の最後の飼育例ではないかとされる（Lindholm 私信）．

このように漁船が海上などでペンギンを捕獲して持ち帰る例は，1950 ～ 1980 年代の日本では珍しくなかった．例えば，南半球での遠洋漁業船から，少なくともキングペンギン，イワトビペンギン *E. chrysocome*（主にキタイワトビペンギン），フィヨルドランドペンギン，シュレーターペンギン *E. sclateri* が各地の動物園や水族館へ寄贈されたばかりでなく，それらの漁船の帰港地周辺にあった民家で飼われていて，そのペンギンがしばしば新聞やテレビ放送などに登場していた（福田 1997, 未発表）．

上野動物園に残された写真（図 1）では，生息地の赤道直下のガラパゴス諸島には無縁の氷山を模した動物舎で展示されていた．その当時は，フンボルトペンギンなど他の温帯性のペンギンでも同様な例が普通で，ペンギン即ち氷山という発想が定着していた（福田・小出 1999）ためとみられる．死後，剥製が作製されて，上野動物園に保管されている．

ところで，国内での記録でないが，日本人によって短期間ガラパゴスペンギンが飼育された例が他にもあった（高島 1961，どうぶつと動物園編集部 1965）．東京水産大学（現，東京海洋大学）は創立 70 周年記念事業の一環として，練習船海鷹丸を派遣し，1959 年 12 月 3 日から 1960 年 1 月 19 日の間（途中でエクアドル本土を訪問したため，実際の調査期間は 17 日），ガラパゴス諸島周縁漁場と諸島での陸上生物調査を行った（新野 1960a, b）．その際，日本に持ち帰るためにガラパゴスペンギン 2 個体を捕獲したが，帰路途中の船上から脱出したとのことであった（どうぶつと動物園編集部 1965）．調査隊関係の記録には，これらのことに関して書かれたものは見つからず，詳細は不明であったが，関口（1960）の報告に捕獲・収容したとみられる 2 個体の写真だけが掲載されていた．そのため，飼育期間などはわからない．なお，調査隊は多数の動物を収集して持ち帰っていたが，それらの標本の中にガラパゴスペンギンは含まれていなかった（東京海洋大学マリンサイエンスミュージアム 私信）．さらに，国内の博物館や研究所などの多数の関係施設を調べたが，本種剥製の所蔵は確認できなかった．従って，上野動物園所蔵の剥製が国内唯一の本種の剥製と思われる．

図 1．氷山を模した動物舎で飼育されていたガラパゴスペンギン（東京動物園協会提供）．
Fig. 1. The Galapagos Penguin that was kept in the exhibit imitating an iceberg（Photo: Tokyo Zoological Park Society）.

その外に，戦前に 2 カ所の動物園で，ガラパゴスペンギンの飼育または剥製所蔵の記録があったが，それらは共に残された写真によって，フンボルトペンギンの間違いであったことが判明している（福田 2013）．

以上をまとめると，ガラパゴスペンギンの飼育は 1915 年から 1960 年代まで断続的に続いたが，飼育

記録は多くなく，北アメリカの飼育施設の 6 カ所と個人の 1 カ所に限定されていたと思われる．北アメリカ以外で唯一の日本で飼育されたガラパゴスペンギンは，マグロ漁船が海上で捕獲して持ち帰った 1 個体であった．日本では 2 カ所の飼育施設で 1963 年から 1969 年までの約 6 年間飼育された．その外に日本船内で短期間飼育された 2 個体がいた．

謝辞

世界のペンギン飼育に関する多数の資料を東京都恩賜上野動物園資料室で閲覧させて頂いた．東京水産大学調査隊の記録が掲載された文献の一部の入手では，日本ガラパゴスの会の奥野玉紀氏にご協力を得た．上野動物園飼育時の写真は東京動物園協会に提供して頂いた．タルサ動物園の Josef Lindholm 氏に多数のアメリカでの飼育記録を教えて頂いた．川田　健氏がその情報の仲立ちをして下さり，また本稿の校閲をして下さった．さらに，我孫子市鳥の博物館の小田谷嘉弥氏には本稿について多数の有益なコメントを頂いた．合わせて深く感謝を申し上げる．

引用文献

Anonymous 1934. Tropical penguins. ZOONOOZ (The special publication in 1934): 21.

Anonymous 1935. Our popular penguins. ZOONOOZ (The special publication in 1935): 6.

Bermuda Biographies.（オンライン）http://www.bermudabiographies.bm/Biographies/Biography-Louis%20Mowbray.html. accessed 2018-3-28.

Boersma P.D. 1977. An ecological and behavioral study of the Galapagos Penguin. Living Bird 15: 43-93.

どうぶつと動物園編集部 1965. 上野にきたガラパゴスペンギン（表紙説明）．どうぶつと動物園 17: 257.

福田道雄 1997. 日本におけるペンギン飼育史試論．動物園研究 1(2): 30-47.

福田道雄 2013. 日本の戦前のペンギン飼育．動物園研究 (20): 48-59.

福田道雄・小出美紀 1999. 戦前の阪神パークにおけるケープペンギン飼育が及ぼした影響．博物館研究 34(6): 16-19.

BirdLife International. *Spheniscus mendiculus*. The IUCN Red List of Threatened Species 2016 (online) http://www.iucnredlist.org/details/22697825/0. accessed 2018-3-28.

伊藤秀三 2002．ガラパゴス諸島．角川書店 , 東京．

小森　厚 1964. ペンギンを集める．黒田長久（監修）動物を飼育する：134-169. 紀伊國屋書店 , 東京．

Low G.C. 1929. List of the vertebrated animals exhibited in the gardens at the Zoological Society of London, 1828-1927. Vol. Ⅱ. Birds. Zoological Society of London, London.

Martin S. 2009. Penguin. Beaktion Book Ltd.,London.

Salomon D. 2011 Penguin-Pedia: Photographs and Facts from One Man's Search for the Penguins of the World. Brown Books, Dallas. (サロモン D. 出原速夫・菱沼裕子 (訳) 2013．ペンギン・ペディア．河出書房新社，東京）

新野　弘 1960a．ガラパゴス群島調査行．世界の旅・日本の旅 (11): 49-61.

新野　弘 1960b．ガラパゴス群島調査概報．地学雑誌 69: 128-137.

佐々木時雄 1977．続動物園の歴史（世界編）．西田書店，東京．

関口晃一 1960．島の動物たち．世界の旅・日本の旅 (11): 62-73.

高島春雄 1961．世界のペンギン．どうぶつと動物園 13(8): 6-9.

Townsend C.H. 1927. The Galapagos Penguin in captivity. Auk 44: 509-512.

Vargas H., Lougheed C. & Snell H. 2005. Population size and trends of the Galápagos Penguin *Spheniscus mendiculus*. Ibis 147: 367-374.

Winn M. 1935. Buy penguins from Byrd for Brookfield Zoo. Chicago Daily Tribune, 24 May, 1935.

The Galapagos Penguin kept in Japanese Zoo

Michio Fukuda
Study Group of Captive Penguin History, 5-4-58, Higashi, Toride-shi, Ibaraki 302-0005, Japan

Summary

The Galapagos penguins were kept in captivity intermittently from 1915 to 1960s in six zoological institutions and one private estate in North America and in Japan. To date there has been only one Galapagos penguin maintained in Japanese zoos. This individual was captured by a tuna boat and brought back to Japan, It was kept for about 6 years from 1963 to 1969 at two zoos (1963-1964: Hamamatsu Zoological Garden and 1964-1969: Ueno Zoological Gardens). In addition, two individuals were kept on the training ship (Umitaka-maru) of Tokyo University of Fisheries for a brief period.

Key words: Galapagos Penguin, Record of penguin in captivity. Ueno Zoological Gardens, Hamamatsu Zoological Garden.